

令和5年度日本小児外科学会
第5回定例理事会議事録

日 時：令和5年10月25日（水）11：00～14：00

会 場：九州大学百年講堂 会議室1+WEB

出席者：小野 滋（理事長）、家入里志（副理事長）、田尻達郎（理事・会長）、浮山越史（理事・次期会長）、石橋広樹、内田広夫、尾花和子、加治 建、田中秀明、平林 健、瀧本康史、米田光宏（以上理事）、奥山宏臣、越永従道（以上監事）、臼井規朗（第39回秋季シンポジウム会長）、田中潔（第40回秋季シンポジウム会長）、大植孝治（第41回秋季シンポジウム会長）、岡島英明（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門制度庶務委員会委員長）、黒田達夫（神奈川県立こども医療センター総長）、照井慶太（庶務委員長）、田中奈々（庶務副委員長）、松浦俊治（庶務委員）、上原秀一郎（財務会計委員長）、山田洋平（財務会計副委員長）、柴田晶子（以上事務局）

欠席者：木下義晶（施設認定委員会委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第5回定例理事会の議事録署名人は、石橋広樹理事・尾花和子理事とした。
2. 令和5年度第4回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 審議事項

1) 第61回学術集会について（田尻会長）

田尻会長より、現在の進捗状況の報告があり、承認された。

名誉・特別会員の懇親会・学術集会への招待、評議員の懇親会への参加申し込みについて確認され、内規に記すことが承認された。

○名誉・特別会員は招待とする

○評議員は総会出欠回答と併せて懇親会出欠を確認し、参加費はクレジットカード決済とする

○第59回学術集会にならって名誉会員は一泊につき総額2万円の宿泊補助をし、特別会員には宿泊補助は行わない。

会 期：2024年5月29日(水)～5月31日(金)

会 場：ヒルトン福岡シーホーク 〒810-8650 福岡県福岡市中央区地行浜2-2-3

テーマ：真のQOL向上を目指して

2) 第62回学術集会について（浮山次期会長）

浮山次期会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

会 期：2025年6月5日(木)～6月7日(土)

会 場：一橋大学一橋講堂 〒101-8439 千代田区一ツ橋2-1-2

テーマ：真・善・美～きみの想いを子どもたちのために～

開催形式：現地開催＋ライブ配信

3) 第 39 回秋季シンポジウムについて（臼井秋季シンポジウム会長）

臼井秋季シンポジウム会長より資料に基づき開催準備状況が報告され、承認された。

学術集会・秋季シンポジウムの準備金の配分、飲食代、準備金の振込時期を財務委員会の内規に追記することが承認された。

日時：2023 年 10 月 28 日（土）

会場：九州大学百年講堂

テーマ：小児外科領域における感染症対策

4) 第 40 回秋季シンポジウムについて（田中潔次期秋季シンポジウム会長）

田中次期秋季シンポジウム会長より資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

日時：令和 6 年 10 月 26 日（土）

会場：一橋講堂

テーマ：少子化時代における小児外科医育成

開催形式：現地開催＋ライブ配信（予定）

5) 第 41 回秋季シンポジウムについて（大植次々期秋季シンポジウム会長）

大植次々期秋季シンポジウム会長より、資料に基づき進捗状況が報告された。

日時：令和 7 年 11 月 1 日（土）

会場：千里ライフサイエンスセンター

テーマ：新生児外科疾患の長期フォローにおける問題点

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会（照井委員長）

照井委員長より、資料に基づき報告がなされた。

2023 年 9 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,660 名（うち海外 2 名）、評議員 284 名、準会員 27 名、名誉会員 54 名（うち海外 8 名）、特別会員 67 名（うち海外 1 名）、賛助会員 1 団体の合計 2,092 名＋1 団体である。

10 月 20 日に逝去された特別会員 長寄 彰先生の追悼文の執筆者を九州大学の関係者で検討し、理事長に報告することが承認された。

外部委員の先生について、定款でどのように明記するかについて司法書士に相談予定であることが報告された。奥山・越永両監事から、「顧問」と「顧問（外部委員）」ではわかりづらいとの指摘があり、外部顧問とすることが承認された。

(2) 財務会計委員会（上原委員長）

上原委員長より、12 月に中間決算を確認する予定であることが報告された。

(3) 専門医制度委員会（専門医制度各委員長）

古村 眞専門制度庶務委員会委員長から、専門医試験について報告された。

(4) 機関誌委員会 (田中秀明担当理事)

田中担当理事より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

(5) 国際・広報委員会 (澁本担当理事)

澁本担当理事より、資料に基づき HP の改定状況が報告された。

(6) 保険診療委員会 (尾花担当理事)

尾花担当理事より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

(7) 教育委員会 (内田担当理事)

内田担当理事より資料に基づき報告され、承認された。

令和 6 (2024) 年 6 月 30 日 web 開催を予定している第 39 回卒後教育セミナーの会告が承認された。

卒後教育セミナーの講義ビデオについて、WEB で保管することを検討していることが報告された。

第 16 回小児内視鏡外科手術セミナーは第 39 回卒後教育セミナーと同日 (令和 6 (2024) 年 6 月 30 日) web 開催を予定しており、現在プログラム作成中であることが報告された。

令和 6 (2024) 年 8 月 10 日 (土) 名古屋大学において開催予定の小児外科サマースクールについて報告された。

10 月 27 日開催予定の第 15 回小児内視鏡外科手術セミナーについて報告された。

日本外科学会プラットフォームを利用した E-learning 立ち上げの準備状況について報告された。

(8) 悪性腫瘍委員会 (平林担当理事)

平林担当理事より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

(9) 学術・先進医療検討委員会 (米田担当理事)

米田担当理事より、資料に基づき報告された。

2023 年 9 月 19 日に小児救急検討委員会の好沢克先生より審議依頼があった、門田班研究のアンケート調査である「COVID-19 による小児外科診療への影響に関するアンケート調査」について、学術・先進医療検討委員会の審議結果が報告された。倫理審査は前委員会・新委員会を並記するなどした方が良いのではないかとの指摘があり、これに対しアンケート調査の代表者である平林理事より、倫理審査をし直してもらっている状況であることが報告された。

前回の理事会で審議された「胆道閉鎖症診療ガイドライン活用アンケート調査」について、東北大学の久保龍二先生に審議結果を連絡したことが報告された。

(10) 倫理・医療安全管理委員会 (石橋担当理事)

石橋担当理事より、第 61 回学術集会の講習会の講師を選定中であることが報告された。医療事故調査の協力について、再アンケートを行う予定であることが報告された。

(11) データベース委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告された。

2023 年 9 月 26 日の第 3 回理事会で審議した、2021 年度に承認された NCD 研究（外科複数領域「成人手術の Learning curve から推定される小児外科医の症例経験数の充足割合の検討」）の修正申請に関する審議の結果を申請者に報告したところ、報告書の受領及び研究チーム内で検討し回答するとの連絡があったことが報告された。

2023 年 9 月 9 日、初の前向き研究の申請となる「先天性胆道拡張症におけるロボット支援手術の有用性及び安全性評価」の研究計画書が学会事務局に提出され、データベース委員会内で事前審査中であることが報告された。

2023 年 9 月 19 日に募集を開始した「NCD データを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の公募」に対して、広島大学檜山英三先生より応募があったことが報告された。提出された書類の一部の記入漏れを修正の上、承認することが承認された。

2023 年 10 月 6 日に 2020 年に採択された「新生児手術における手術部位感染症の発生因子と予後に与える影響の検討」の申請者の山道拓先生から、「2015 年～2019 年」の症例を解析する予定であったが、「2015 年～2021 年」と修正したいとの申請があったことが報告され、承認された。

(12) 小児救急検討委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、資料に基づき報告された。

2023 年 9 月 29 日 11 時ごろより開催された内閣府主催防災訓練について報告され、対応を改善していくためにマニュアルを改訂することが承認された。改定版は事務局が対応できない場合も想定して作成することになった。また、防災訓練が土日の場合でも事務局が対応できるかについて確認することになった。

2023 年 10 月 1 日に開催された小児救急連絡協議会について報告された。PALS 講習会に関して、小児科学会が行っている JPLS に参加すれば良いのではとの意見が寄せられ、小児科学会の事務局担当者に現実的に可能か問い合わせ中であることが報告された。

2023 年度の門田班研究のアンケート調査の進捗状況について報告された。

2023 年 11 月 8 日開催の第 23 回健やか親子 21 推進本部総会に好沢委員長が出席予定であることが報告された。

(13) トランジション検討委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告された。

「外科疾患を有する児の成人期移行についてのガイドブック第 2 版」、「移行期支援のための患者サマリー（2022 年版）」使用の実態調査（一次アンケート調査）の内容について、10 月 18 日に開催された第 2 回 WEB 会議で討議したことが報告された。

四者協委員会、日本小児科学会移行支援委員会から移行期支援の状況を日本小児科学会 HP に掲載するための情報について更新の依頼があり、「外科疾患を有する児の成人期移行

についてのガイドブック第2版」(2022年12月作成)の内容を更新して報告する予定であることが報告された。更新したガイドブックは日本小児科学会 HP に掲載予定であることが報告された。

(14) ワーク・ライフ・バランス検討委員会 (尾花担当理事)

尾花担当理事より、資料に基づき2023年10月16日に開催されたワーク・ライフ・バランス検討委員会について報告された。

前回の理事会で継続審議をすることになった求人に関する掲示板について議論し、ワーク・ライフ・バランス検討委員会で掲載に関する規定を作ったうえで掲示板を作成し、国際広報委員会に掲示を依頼する、可能であればワーク・ライフ・バランス検討委員会のバナーからリンクに到達できるように相談することになったことが報告された。

第61回日本小児外科学会学術集会において、「小児外科医の働き方改革」に関するシンポジウムを学術集会およびワーク・ライフ・バランス検討委員会との共同企画として開催するにあたり、主幹施設である九州大学の永田先生も交えて検討したことが報告された。

(15) 規約委員会 (石橋担当理事)

石橋担当理事より、各委員会の顧問・補佐といった名称を整備することが報告された。

次回理事会で、ロボット支援手術検討委員会の規約を報告する予定であることが報告された。

(16) 研究倫理委員会 (石橋担当理事)

石橋担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

(17) NCD 連絡委員会 (渕本担当理事)

渕本担当理事より、資料に基づき報告された。

門田班の受託研究「COVID-19による小児外科診療への影響」の研究経費について、2022年度は250万円だったが、2023年度は150万円だったことが報告された。

厚生労働省の事業なのでパブリケーションを出した方が良いか確認があり、門田班への報告書を作成すれば最低限はクリアすること、学会としてパブリケーションを出すかは別問題であることが確認された。

(18) ガイドライン委員会 (加治担当理事)

加治担当理事より、資料に基づき報告された。

ガイドラインの発刊について声がけをしていた東京医学社(腸回転異常GL発刊業者)から、小児外科領域においては、近年読者層減少が続いており、読者対象は限られた人数であるため、発刊のためには制作費や、タイアップ可能なメーカーの紹介、印税を5%にするなどの協力を仰ぎたい、との連絡があったことが報告された。議論の結果、いくつかの出版社にあたってみて、冊子での発刊が難しければ電子媒体で出版することを検討することになった。

(19) 利益相反委員会（米田担当理事）

米田担当理事より、資料に基づき 2023 年 10 月 23 日に開催された第 1 回利益相反委員会について報告された。

広島大学檜山英三先生から「NCD データを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の公募」に応募された「小児、AYA 世代肝細胞癌の診療状況調査」の審議結果が報告された。

利益相反委員会の 2023 年活動方針が示され、以降の委員会はメール審議で行われることになったことが報告された。

(20) 医薬品・医療機器検討委員会（内田担当理事）

内田担当理事より、資料に基づき報告された。

前回の理事会で、イントラリポス及びミキシッドの添付文書の禁忌の項の改訂について、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医薬品安全対策第一部 および 日本小児科学会より小児外科学会としての意見を求められたことが報告され、小児外科学会として、禁忌となった場合、静脈栄養に依存した患者が食物アレルギーを有すると、代替薬がないので必須脂肪酸の補給ができないことになるため、禁忌ではなく‘慎重投与’を求めることが承認された。和田顧問、古田委員長が出席した 2023 年 9 月 25 日の（独法）医薬品医療機器総合機構 PMDA とのウェブ面談において、「本剤の成分に対し過敏症の既往のある患者」と記載される予定だったが（この記載は解釈によってはかなり投薬制限を受ける可能性あり）、当学会の意見に耳を傾けて頂き、再検討いただけることになったことが報告された。

小児外科では低浸透圧性非イオン性ヨード系造影剤による消化管造影剤を診断、治療で用いることがあるが保険適応外である。適応外使用の保険適応について、どのように進めるべきか、小児科学会薬事委員会（中村委員長）からアドバイスをいただき、公知申請においては、添付文書の書き換え等で膨大な負担を強いられるため、「55 年通知」による申請を進める（日本小児放射線学会、日本小児科学会と共同で）、欧米で小児消化管造影の承認が得られている‘オムニパーク’と‘ビジパーク’の 2 剤（一度の申請で学会当たり 1-2 品目に絞る）を、小児消化管造影剤の候補品として提出（日本小児科学会薬事委員会）することになったことが報告された。

(21) ロボット支援手術検討委員会（家入副理事長）

家入副理事長より、委員会規約を作成したことが報告された。

(22) 総合調整委員会（家入委員長）

家入委員長より、資料に基づき報告された。

(23) 日本外科学会理事会（田尻前々理事長）

田尻会長より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

(24) 四者協関連（小野理事長）

小野理事長より、カテーテルの件についてはメーカーも厚生労働省も把握しており、12 月から解消される予定であることが報告された。

7) 第 63 回日本生体医工学会大会協賛依頼 (小野理事長)

小野理事長より、第 63 回日本生体医工学会大会の協賛依頼について報告され、協賛することが承認された。

第 63 回日本生体医工学会大会の大会長である家入副理事長から、協賛学会は非会員でも会員として参加できるなど、補足説明がなされた。

8) 東京医学社「小児外科」における無断転載事案について (小野理事長)

小野理事長より、黒田達夫神奈川県立こども医療センター総長から東京医学社「小児外科」における無断転載事案について報告がある旨述べられた。

黒田神奈川県立こども医療センター総長から詳細が報告され、小児外科学会として対応について継続審議していくことになった。

1. 報告事項

1) 理事長報告 (小野理事長)

- (1) 日本医学会からの通信文「第 34 回日本医学会公開フォーラムの開催について (案内)」を受領した。
- (2) 日本集中治療医学会の通信文「学術集会開催時期の変更について」を受領した。
- (3) 日本小児がん研究グループ寄贈本「JCCGPress」を受領した。
- (4) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレターNo.217」を受領した。
- (5) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.404」を受領した。
- (6) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ! Vol.200」を受領した。
- (7) 日本医学会からの寄贈本「日本医学会シンポジウム開催案内ポスター・リーフレット」を受領した。
- (8) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中 10 月号」を受領した。
- (9) 医療事故調査・支援センターからの寄贈本「医療事故の再発防止に向けた提言 第 18 号」を受領した。

2) 次回定例理事会日程の確認 (小野理事長)

次回定例理事会は令和 6 年 1 月 16 日(火)11:00~16:00 大阪大学東京オフィスにて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____